

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

【ドル/円 週足】



中長期展望

2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に 118 円 60 銭の高値をつけました。

2016 年 12 月に FRB が利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の 118 円台が今年の高値となり、ドルは軟化し 4 月には 108 円 13 銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられました。

その後は 114 円 37 銭まで値を戻すも、108 円 81 銭まで下落、114 円 49 銭まで再浮上後再び 110 円割れとなり、9 月に入ってから 107 円 32 銭まで安値を更新しました。

9 月に入ってからドル安・円高の背景には、米国のハリケーンによる経済への打撃などを背景として FRB が年内後一回以上の利上げを行うとの期待が後退したことや北朝鮮リスクの高まりが挙げられるでしょう。

北朝鮮は、大陸間弾道ミサイルの発射や大規模な核開発実験など、米国をはじめとした国際社会へ

ドル/円相場のトレード戦略

の挑発を強めており、軍事的緊張の高まりがマーケットをリスク回避姿勢へと向かわせているといえます。

ただし、地政学的リスクからのリスク回避による円高は短期的には大きな変動要因といえるものの、中期的な為替相場の方向性は米国のファンダメンタルズに左右されと考えられ、実際に米国のハリケーンによる悪影響が予想よりも小さいものとどまるとの観測が出ると、ドルは 113 円台を回復する動きとなりました。

年末に向けては、9 月 FOMC で米国経済の堅調推移が確認され、さらにはトランプ政権による減税政策発動が実現される可能性が高まればドルの上昇基調継続が期待され、これまで続いた 110 円～115 円の取引レンジが上方修正される動きとなるでしょう。

115 円をクリアーの上抜くと 116 円半ばが視野に入ってきますが、115 円水準をクリアー上抜けできない場合は、110 円～115 円のレンジ相場継続がメインシナリオとなってしまうでしょう。

■短期展望

先週は、週初 113 円台前半でスタートしたものの、その後は米長期金利が低下するなか、ドルもじりじりと軟化し、週末には「ロシアゲート疑惑でモラー米特別検察官がトランプ大統領陣営のメンバー宛に召喚状を出した」と報じられたことなどを嫌気し、一時 112 円を割り込む動きとなりました。

今週は日米の休日もあり、模様眺めムードが強まるなか膠着間の強い相場展開となる可能性が高いでしょう。

米国の景気拡大や金利上昇への期待感は根強いものの、115 円の上抜けに失敗したことで積み上がっていたドル・ロングポジションに対する調整ムードが強まっており上値を圧迫するでしょう。

したがって、今週は 111 円半ばから 113 円半ばでのレンジ相場を想定し、回転の早いトレードを心がけたいところです。